



仇詒七部集

阿羅野

五

^ 5  
5625  
5



門  
號 5625  
卷 5



尾陽茅子友檀木堂主人荷今子集を  
海く是はあらはせし何ありは  
きこふは志くまふ事とるうにわ母ひ  
もくくまふくは此郷くは猿の森とく  
わたりくはまはあつたらくまはれは  
いふくははのまおはくくまはれは  
まのくははのまおはくくまはれは  
まのくははのまおはくくまはれは  
まのくははのまおはくくまはれは





卷之五

初冬 仲冬 歳暮

卷之六

雜

卷之七

名所 旅 迷懷 意 樂事

卷之八

釋教 神祇 祝

負外 目錄

曠野集卷之一

花三十句

よりのこと

こ神さし〜とささるる心 花子地心 真室

よあさ〜とささるる花のあすか 路通

ささるる雲さしけり〜とささるる花のあすか 信徳

ささるる雲さしけり〜とささるる花のあすか 晨風

善佛〜花乃後〜と鬼瓦 友五

山里より管の志ゆる花ん那

尚自

何よりお世も人乃長刀

去來

みゆ乃雲よじり世もたはし

野水

もよみあつたふりてまゐりいぢ

龜洞

下、花下ともおらといふゆん花の宿

越人

それ乃山帯おくふる枝よはし

一井

又あやしくあはれぬ花の庵

俊似

兄弟のいろはあまこゝものこゝ

嵐彈

ちりちりおらほぬす人

舟泉

冬汁又教くまがや花乃ほ

胡及

えつ花又誰か傘あいはいす

長虹

栄舟乃花咲きまが月乃雨

十枝

あまのちよなるくそきりむの枝

鷗歩

連のつやほきさねり花おほ

荷兮

菟瘦乃ほさるえゆるもあんや

傘下

あしきあや風車賣り花乃とぎ

薄苔

花よそくはく〜とぬらぶ

山あひ乃風な夕日あはし

ねあしる夜宿さきよの雲

なやあひちましくもあはれ

獨来つ交還ひかり花結やま

花多もこころ昔の尾止りあ

着おしつ世もあはれと

ほの〜あはれ人乃結

月巻となく〜ほの〜

あはれ人乃結

檀乃〜あはれ〜

杜宇二十句

〜あはれ〜

〜あはれ〜

〜あはれ〜 季吟

月よりの青葉は風よりの秋の木 素堂

いそいであふもいそいであふも 釣雪

蠟燭のひらりとひらりと 越人

ねひー子乃にさすもや 松下

跡也是もみはく 重五

海と風は 柳風

あゝ人のまよふも 各々のまよふ

まよふまよふ

かゝる風はかゝる風は 嵐弾

晴ちも風はかゝる風は 落梧

扱る身は夜更うつや 時鳥 一髪

三巻入かと 藤乃ねーや 郭公 同

後よて

かゝる風は十日の風は 風泉

娘もや 雁入らぬ 杏雨

あゝのやと 琴も 傘下

くさかやカクあーまほひま  
馬ささひさしあひさるゝ郭へ  
同 鈍可

きくあまほひまの月を

あまほひまの月を

あまほひまの月を  
大津 智月

うつらさうはあまほひまの月を  
李桃

うたかたあまほひまの月を  
市山

月三十句

上歳

かろくもせき乃う入申く月あふ  
梅吉

あつたーも月あふ申の指しぬ  
湍水

月あふ申あひさうからあふさ  
一雪

雨の月あふさ  
越人

きくあまほひまの月を  
昌碧

あまほひまの月を  
津島 市柳

たうあまほひまの月を  
一長友



いこまておんかみばあ月野中

長虹

岫を夜抱く月えふ那

任他

しんをやいふおんかみばあ

兔洞

是月もあつはなをのやま

越人

あつやうに十二もいふ

文麟

是月やうはなをいふ

昌碧

あつやうに十二もいふ

傘下

あつやうに十二もいふ

二水

見はとの也受えて人乃月見

野水

是月乃る

あつやうに十二もいふ

荷今

あつやうに十二もいふ

同

是月や海もなぬ

去来

あつやうに十二もいふ

胡及

あつやうに十二もいふ

釣雪

あつやうに十二もいふ

一髪

十三夜

新婦のあまのこゝろをねむる月あか

杉風

朔日

暮いふ月乃氣はな海乃泉

荷今

二月

見る人またな月夕の夕

全

三月

何より結えとくまぬすころ月

芭蕉

四月

夕月あんとんくろ志を心

卜枝

五月

何れより見とぬを心くろ月

一泉

六月

銀川見想ふは月を心くろ

鶴聲

七月

能く見よとくろ月あか

一髪友

西上

九

岐阜

晋崎

伊豫

雪二十句

大徳寺

雪の如や船路の如乃と 其角

雪の如や船路の如乃と 芭蕉

竹乃雪乃て雪乃なく雀の 塵丈

かきあや雪乃あふ山乃山 京加全

車道雪乃をく乃あ 小春

雪乃をく乃をく乃顔をばり 越人

はつ雪に戸の如雪乃乃菴の 是幸

との雪の如の如雪の川乃 松芳

雪の如の如の如雪の川乃 二水

雪乃雪乃て雪乃て雀の那 鬼仙

雪乃雪乃て雪乃て枝乃てん 陳風

雪乃雪乃て雪乃て雪乃て 鷺汀

雪乃雪乃て雪乃て雪乃て 傘下

雪乃雪乃て雪乃て雪乃て 菅川

雪乃新から鮭とくるあまじし

そ文

雪新言於さやうしや鷹鳥色

桂夕

ちりり中淡雪がほろ強飯

荷兮

まつ雪やせき多履にて隣まで

路通

はのゆきおきのとあまじし取

野水

舟かけくくくゆ然とも海の雪

芳川

曠野集卷之二

歳旦

こぼよきぬいのきこきあ花の表

芭蕉

あか人のまからまがしかな乃春

釋  
古梵

つらみや九十年出づる縄

風鈴軒

松のころと伊勢の家買人も誰

其角

くまの吾連歌あすすかたを

文鱗

月こきみおしあまのまきし門の松

玄來

かゝる木よなほくさすかき 拾芥 一晶

元龜也何ぞかきかきかきかき 路通

元日はゆめゆめしきくさくさくさくさく 一笑

止園又梅乃むむむにちひの部 如行

物に社考よきくさくさくさく 落格

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 龜洞

伊勢浦也清木引休せとぬぬぬ 同

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 昌碧

去年の暮ちいさくさくさく 元廣

小井子栗やひろむむむのうと 舟泉

どー男子秋系をあらひきり 同

山菜よくく白やうる竈う那 重五

松よくく引鳥はとく平ねさ 釣雪

月也乃初き琵琶乃木やうり 同

運くさくさく子よほくさくさくさく 一井

うくくくくくくくくくくくくくく 胡及

あ上

三

えねほまむこや新かみまの海 長虹

とびを起て縄ゆかやく柳か 嵐弾

さや那ゆふいみ面いのまゝ 同

あそ美や舟の通みうんまぐさ 湍水

佛とらへ神そ出さくさねとぬめ 京 と久

のゝ宮やぐの目さくうあゝん 朴什

くみいことたうやひもすたろ物 冬文

正月の魚乃くしらや炭きりら 傘下

くは結喜寂しかきほ用く那 冬松

あいにくま松あま門あねあうや 柳風

大服もまき平のまき結白や 防川

雪も結なるままの舞ま平ねとこ 大山 昌勝

傘に齒乃采かきりえ方と那 夕道

袖すくく松の葉ふねると結の葉 梅舌

きくくくくくくくくくくくく 野水

曙とまみおねやたくふりら 同

まじりておのれをてこたへたり堅勇、越人

和弓也濱らみお橋乃とみと波 同

きり也志は湯階よみの夏序 荷守

島出歳乃やむと隣よみよと 同

己のやーやむしりまおたおの 同

我が喜月とてに立ちまの毛也 僧 般齊

家等式う存よの耳もおの事 貞室

初巻

まの葉つむ跡を木は割細し 越人

精出しつ橋よとてぬの葉 野水

七草をさしつ花とて居子も 津山鳥 俊似

女もつと橋つみあとのつと葉也 加賀 小春

側傳了紋乃ねをた儀さ葉も 藤羅

吾もつと橋しつをぬる葉也 岐阜 素秋

石物つとつと梅おしき葉 玄宗

春もあつておもしろい梅の花 陽春

ひまみちの乳まじり梅の花 越人

数えし梅の花のよちらん梅の花 落梧

梅おこるいこい西まき野中風 一發

美女もあつておもしろい冬松

みのちとつゆ梅の花 蕉笠

網代民部の息くさく

梅乃木よあまや梅の花 芭蕉

~~~~~ひげりこま風 長良 若風

~~~~~お餅ひげり片 去來

あまほの舟 伊賀 一桐

~~~~~お梅 伴 一笑

~~~~~お花 市柳

~~~~~お花 同 夢々

~~~~~お花 梅舌

~~~~~お花 野水



~~~~~ 程の~~~~~の~~~~~ 塵交

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 冬交

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 芭蕉

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 傘下

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 路通

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 荷今

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 舟泉

南屋題

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~

梅木

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 傘下

椿

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 荷今

同

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 卜枝

春雨

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~ 湍水

同

夏の雨やともを降ること

氣彈

白尾雁鳥

うやぬさう尻しきい白尾水

野水

蛛乃井ふまきぬかきやとり風

奇生

立句りの草えこ法明金水

<sup>土歳</sup> 龜助

すこ〜と教子橋きのぼくし

舟泉

すま〜と橋やつますや土の年

其角

すこ〜とあつ子のまかり土年

蕉鏡

土橋やと〜と〜と〜と〜と

塩車

川舟やも波の〜とつむ土年

冬文

は〜と〜と〜と〜と〜と〜と

音江

蘭亭乃至人池り

移るをまき〜と

〜と〜と〜と〜と

池へ移る〜と〜と〜と〜と

素堂

風の吹方後よりやあきし 野水

何もの形 ともしり折れ 越へ

さし柳出さるる鳥の鳴りし 一矢

尺くらくてもやむるもの折れ 小春

すつれし柳を風よこす 一矢

いさしきさきさきし折れ 昌碧

さうれも髪乃ゆのまゆ折れ 杏雨

こしきし折れし折れ 川橋

ゆきし折れし半のさきむく柳れ 杏雨

吹風く層こころはあきし 松雪

うしろの鳥はらわのなるれ折れ 後遊

いさしき野鍛治はし折れ 黄今

蝙蝠こころは月乃折れ 全

昔折れし折れし道まの車折れ 素想

いさしき後へ折れし折れ 鷗步

菊乃名とさ折れし折れし折れ 生於

仲春

麦の穂にさ木をぬく嵐 不悔

草木の芽や杉葉の土をぬく 長虹

木の葉の芽をぬく 傘下

菜の花の畦うら 清洞

うさぎと人 去來

一カ歳を仕舞ふ 昌碧

しこま 越人

廣 矢艸

を 除風

の 一橋

し 冬松

あ 一髪

の 野水

あ 除風

の 一雪

五七

七

りくくし備縄解くやる維多や 盐車

身成つて高の尸あはる魅う那 山崎 宗鑑

あささといやあひま蛇かたう肌 落梧

あささまもむししうらよ写書 越人

しらす色と骨柱者のかざりゆ 去來

花入とまけけしあゆく魅う肌 落梧

不圖と花てはふ居をを侍下 洋嶋 松下

ゆふやまの角細又しるす魅う那 一井

まら蝶を思乃尺お尻多ひゆ 柳風

櫻桐の葉にさあつてさる胡蝶 ゆ 梅餌

かやうしお中をわらふ花こころ肌 炊玉

かたきやうお花こころし胡蝶 百歳

*あささまもむししうらよ写書*

何れも乳もつたぬりおまは草か 忠知

ぬふしと馬よらあまあし草草 荷今

わしうくの土と花縁と草う那 野水

鳥をたつらとけは乃とす洞の草を  
舟泉

草刈て草選おす三星一那  
鷗步

以蝶れと高と種とぬあさみ  
燭遊

麦畑乃人えはさるの境う那  
杜園

まけ山や懸の月おす所  
戎之大女

ほろくさ山吹ちとちう瀬乃春  
芭蕉

松明くやう吹うけし雪のい海  
野水

山吹とつゆのおき死地あ  
ト枝

一まのや山吹のぬくゆへ那  
標雪岐阜

こつはぶこちやうぬさるる  
蓬雨同

あそふよなほくさむぬ燕うな  
去來

ちよの鼻みおぬをす燕う  
俊似

いよふかといを地とるるの燕う  
長之

發乃鼻は眼りすをえの那  
長虹

黄昏くたてぬさゆらる燕哉  
崩彈

友減て鳴きういなるあ乃居  
且兼

角落てやましくもえゆ小庵が 蕉堂

あらし清くも霧よみ浦のけりてが 越人

ねもと子も月し 鈴もゆ櫓の所 傘下

人よあむ舟と障よのけりてが那 友重

ふまゆりもあまふ躑躅の風 荷今

朧夜やあくるてきけり藤のむ 兼正

篝火又夏のまけりぬ鶴舟の那 龜洞

来さ日や鐘実ゆもらぬ如し 卜枝

来さ日や油志免木乃とらふ海も 野水

の春あめも塔もあまのけり 同

曠野集卷之三

初復

三途もかへれ白雲もかへれ

路通

更衣襟もたれしもやたれし

傘下

さるもく刀もさるもく

扇彈

肖柏老人乃毛ちたまひしあはし心せし  
まきこころのまきむけし文麟うらみ  
せし宇治の舟越人うきこころを  
あはし心せし文麟うらみ

歌よ焼くもあはし

荷今





一 散るるまゝのまゝはえりたり 後阜 季批

大粒の雨くこもえり 友子姑也 東巡

友子ひく思お拾ひぬ友子の也 吉次

源川の居て

菴のわもふーくなくぬすけ 嵐雪

さひーさ乃こまればえすかつき 野水

仲夏

お月みるるまゝはえり 櫻井 元輔

川流の馬心 一髪

窓のこり障子 不更

扇をひく 風笛

為細く 青江

あはれ 舎帖

く 卜枝

あ 鳴舟

とて 藤室 鳴舟

さくらさきのうららかにあめれおぼや 秋芳

故のむすめ梅乃一本とて思ふにり 小春

うやうやな夏をせぬくあつたふりや 杏雨

るのく紙傘乃くらくよはむ蚊の 二水

蚊乃瘦て鏡みうへはさかりし 一笑

薄みゆふのほきる 昔は曼珠 胡及

招引る薄の心きむし思ふにの肌 児竹

足伸へく娘百合竹おしすをぬふ 此橘

竹乃子よ行燈をけてまさりも森 長虹

笋乃時をさるーうみ竹 去來

岡杉ゆきくぐりて水鶴が 野水

五月雨は柳よまは行、那 <sup>大伴</sup> 一龍

このはち小粒おなめ五月雨 尚白

みこし雨を傘よまはちを雨ふり 龜洞

は阜みく

おゆーうらみしとては精魂が 貞室

ねたりー取うて

おとーろーろーわーわーかめーき

猪舟が

芭蕉

おるく

猪のぼろよ舞の心ゆく憐れや 荷兮

同

春のあはれを写らん猪舟舟 越人

支那の心寂もかまらぬ猪舟舟 <sup>大律</sup> 淳兒

曲江の流舟のええぬらうあわらな 梅餅

鴨お鼻のええこりあをかくれを 路通

松の枝緑をええこる夏野一少 卜枝

虹乃根をかく次野中乃標少 鈍可

蒲花の花や泥をええこる夏乃雨 同

荷子や藤袴書人をええこる人 越人

冷ーや灯のこほ夏乃あさ 藤羅

夏花あやこころ火は紅廉えいゆ 且芝束

蒼乃あさこ

すひつゝさきこちへー 夏は岩俵 其角  
 夕ふかや秋きさの夜へ 秋瓢の肌 芭蕉  
 ゆふはの志ほもさ人乃志へ 野水  
 夕良き改り留ほよのうはふ 借雪  
 山詠来て夕ふかみよはのまのふ 市柳  
 夕き色ちほゆふはふ 長虹

暮夏

楠も動くやうし 蟬 昌碧

雲北半 腰うけはなむむなり 野水  
 夕ちよ千傘めく 傘下の 傘下  
 あーーとて夜もやぬ木陰は 去来  
 涼ーとさく白雨あつー入ぬ影 去来  
 簾ーと涼ーや宿のまゆりも 荷手  
 まるい庭は砂あつーぬ暑さ 同  
 ねもとすの人の通きり夕涼も 如風  
 花石乃石鏡や草花下涼み 俊似

涼しき也構乃下ゆくあの音 全

柁燈力のさやうゆーし涼し舟 卜枝

すーしきやわきやうなる川舟 舟 未學

吹ちてあはれくたへ蓮う那 收阜 秀正

蓮みじかきやうやうさう 松坂 晨胤

笠をひいて女ぬく蓮うさう 古梵

何骨くあの力ゆりあゆみ 美水

~~~~~とさうらう松の古枝 長虹

すきさうらう 後似

連あゆむ待きを 女瀾

引立てて鳥にのちゆき 濂月

かこひくを浅き 尚白

虫ほ 一髪

麻力 卜枝

約種 李晨

後く付く 越人

綿乃心き海く蒼く何ぞの  
素堂

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

曠野集卷之四

初秋

ちろろちや麻川あとの秋は凡  
越人  
梧乃我ふやうの川より火の風  
圓解

松嶋雲居のちろろ

一ふふあきあきしはしきまかりし  
仙化  
うらひらのちろもや秋の夕ぐさ  
方生  
男くさ花洞織な星は手向し  
杏雨

あは

あは

秋風や志しき乃ちうらりう那 芭蕉

隣あはれあさのほけしうしうり 文鱗

あはれふやひくさのあさのほけし 荷今

子たむかひのあさのほけし

秋風や志しき乃ちうらりう那 同

隣あはれあさのほけしうしうり 西歩

あはれふやひくさのあさのほけし 胡及

あはれふやひくさのあさのほけし 肩強

秋風や志しき乃ちうらりう那 去來

涼しき乃ちうらりう那 昌長

畦道くさあおすゆきあさのほけし 鷺汀

あはれふやひくさのあさのほけし 一髮

あはれふやひくさのあさのほけし 素秋

あはれふやひくさのあさのほけし 芭蕉

あはれふやひくさのあさのほけし 其角

あはれふやひくさのあさのほけし 舟泉



ひよあしと物あはれ 芭蕉

棚作作者と免さひしを蒲萄汁 不知

草あしとあしぬものあはれ 任口

とくしあしぬものあはれ 荷今

ひんやあしぬものあはれ 胡及

宗祇法師のこと案に

あしぬものあはれ 素堂

あしぬものあはれ 後似

### 仲秋

あしぬものあはれ 芭蕉

つくとあしぬものあはれ 小春

谷川のあしぬものあはれ 益音

石切乃あしぬものあはれ 傘下

斧あしぬものあはれ 卜枝

庵のあしぬものあはれ 一髪

田舎あしぬものあはれ 一泉

一泉

一髪

山深り庭静る作らるる笑たり 重五

紅梅あふらたうきくはるの月 其角

きく地人かゆひてんるおもひか 東順

救世ら中へおもひてんる立枝が 林芥

おんせうへんおもひてんるおん 越木

うのちあまへんおもひてんるおん 宗和

うのちあまへんおもひてんるおん 如賀

飛たさば我ちあまへんおもひてんるおん 北枝

素書いふてんるおん

おのすの海うみおもひてんるおん 越人

一本乃芦み植徳 防川

松の女くぬあててぬおの蝶 舟泉

まろとて寝る池ぬ故ぬのこぬ 胡及

ふよちからぬ市一のきぬらう那 暁龍

関の素年よあひて

こそ旅路ふや 其角



あはれあはれのさしすちゆめあはれ 加生

あはれあはれのさしすちゆめあはれ あはれ 路通

あはれあはれのさしすちゆめあはれ

あはれあはれのさしすちゆめあはれ

あはれあはれのさしすちゆめあはれ

あはれあはれのさしすちゆめあはれ

あはれあはれのさしすちゆめあはれ

あはれあはれのさしすちゆめあはれ

### 曠野集卷之五

#### 初冬

あはれあはれのさしすちゆめあはれ 湖春

あはれあはれのさしすちゆめあはれ

あはれあはれのさしすちゆめあはれ 尚白

あはれあはれのさしすちゆめあはれ 湍水

あはれあはれのさしすちゆめあはれ

あはれあはれのさしすちゆめあはれ 荷今

人を待てる日

と如き花枝をさすのやえさるく 落格

約の下の隙のさすきくゆゑ吹 吹玉

ほし守るるを藁とるきくゆゑ傘 傘下

こかよ二日の月のぬきちる荷 荷手

つ折つて掃の絮をさくぬきり一 一髪

このさくく縁を海ま用極裏同 同

枇杷乃花人のちりぬく木陰のれ同 同

柔乃心ちものつらくさる李 李晨

梨木花をさくゆゑぬきく野 野水

蕨虫乃いつらえぬや陽昌 昌碧

麦あさく青 簾と成全 全

たもとくや 麦あさく比の衣一 一井

隠女のほきさるあ ちる落 落格

石白乃破くおや ちる胡 胡及

青くさるあ ちる文 文鱗

いさゝか 一と物観するも蒸る如 卜枝

あゝ粘り風乃休もたなき野分 洞雪

蓮池草らうめり思ひんゆる枯葉の 鬢

層層夜く石きほまつくかゆ我の 松芳

さか 一と吹き我なり層層の 杏雨

雪霜此露くひささか雪の 蕉笠

寒月

短きあゝく度く月夜面白 野水

あさ漬乃大根あけ月あや 俊似

仲冬

わろくもく鐘志つさあほの 勝吉

志らるるさつさつたさの 皇治

橙くもる馬糞にやの あれの 林芥

柴おきん身ほくの 百よやむの 散の 杏雨

しきりひるさあわろくの 雪の 暮の 肌 宗之

素衣の如き人乃宮に在り  
杜園

舟棚乃葉に影をうつる水に影  
勝吉

深き池に水は清きなり  
歌きり葉  
俊似

つまらなくも川の影をうつる水に影  
除凡

打たれど何れも水に影をうつる  
夜舟

兼題 雪舟

峠をゆく舟は水に影をうつる  
嵐彈

舟は水に影をうつる水に影  
荷舟

舟は水に影をうつる  
長虹

舟は水に影をうつる  
一井

舟は水に影をうつる  
龜洞

舟は水に影をうつる  
言帖

青海や羽白黒鴨赤  
忠知

舟は水に影をうつる  
龜洞

朝鮮をゆく舟は水に影をうつる  
村俊

井を掘ると水は清きなり  
裸くたなり

汗かして谷と突くむ氷室の 冬松  
 海峯鴨乃毒埋きく氷室の 利重  
 炭竈乃穴物くくやうきりあり 龜洞  
 藤糸の女はくくくもはくくく 塩車  
 火の火くくくくくくくくく 一突如賀  
 いらくくくく底起やはくくくく 龜洞  
 冬はくくくくくくくくくく 芭蕉

歳暮

餅つまやゆもむねすほくみ 季下  
 吾書くくくくくくくく 尚白  
 ちんちん花の後をすくくくく 野水  
 ももゆく櫓つくくくく 亀洞  
 煤もくひ梅くくくくく 一髮友

本曾の月くくくくくくく  
 として杯の宴もくくくく  
 今午の暮もくくくくくく



とーのく紳袴袴實二のさく 荷今

門松とくさく路一存ひ 内習

田代く嵐遊子とのさく 兔洞

款さくさくさくさくさく

さくさくさくさくさく

さくさくさくさくさく

さくさくさくさくさく

さくさくさくさくさく

